

3. 目標項目一覧

【健康寿命の延伸と健康格差の縮小の実現に関する目標】

(1) 健康寿命の延伸

項目	現状値	目標値
日常生活動作が自立している期間の平均の延伸	男性 73.8年 女性 77.4年 (平成23年)	平均寿命の延び以上に日常生活動作が自立している期間の平均が延伸する (平成33年)

【主要な生活習慣病の発症予防と重症化予防に関する目標】

(1) がん

項目	現状値	目標値
① 75歳未満のがんの年齢調整死亡率の減少(10万人当たり)	84.6 (平成23年度)	75 (平成27年度)
② がん検診受診率の向上	胃がん 11.1% 肺がん 1.6% 大腸がん 15.3% 子宮頸がん 女性 25.5% 乳がん 女性 16.2% (平成23年度)	胃がん 12.7% 肺がん 3.2% 大腸がん 20% 子宮頸がん 女性 30% 乳がん 女性 20.2% (平成27年度)

(2) 循環器疾患

項目	現状値	目標値
① 脳血管疾患・虚血性心疾患の年齢調整死亡率の減少(人口10万人当たり)	脳血管疾患 男性 50.3 女性 27.5 虚血性心疾患 男性 59.8 女性 25.9 (平成22年度)	脳血管疾患 男性 42.3 女性 25.2 虚血性心疾患 男性 51.6 女性 23.2 (平成32年度)
② 高血圧の改善(収縮期血圧の平均値の低下)	男性 131mmHg 女性 129mmHg (平成22年度)	男性 127mmHg 女性 125mmHg (平成32年度)
③ 脂質異常症の減少(LDLコレステロール 160mg/dl以上の人の割合)	男性 12.1% 女性 18.4% (平成22年度)	男性 9% 女性 13.8% (平成32年度)
④ メタボリックシンドロームの予備群及び該当者の減少	28.8% (平成22年度)	22.7% (平成27年度)
⑤ 特定健康診査・特定保健指導の実施率の向上	特定健康診査の実施率 21.8% (平成22年度) 特定保健指導の終了率 10.5% (平成22年度)	特定健康診査の実施率 60% (平成29年度) 特定保健指導の終了率 60% (平成29年度)

(3) 糖尿病

項目	現状値	目標値
① 糖尿病に関する情報提供の増加	35回／年 (平成23年度)	40回／年以上 (平成28年度)
② 糖尿病および糖尿病の可能性が否定できない人の割合の増加の抑制	25.1% (平成22年度)	25% (平成32年度)
③ 血糖コントロール指標におけるコントロール不良者の割合の減少(HbA1cがJDS値8.0%(NGSP値8.4%)以上の者の割合の減少)	1.32% (平成22年度)	1.2% (平成32年度)

(4) COPD

項目	現状値	目標値
① COPDの認知度の向上	29.4% (平成24年)	80% (平成34年)
② スパイロメータ測定をした人の累積人数	460人 (平成23年度)	3,000人 (平成33年度)

【社会生活を営むために必要な機能の維持・向上に関する目標】

(1) こころの健康

項目	現状値	目標値
① 人口10万人あたりの自殺者数の減少(自殺率)	24.6 (平成22年)	19.7 (平成28年)
② 自殺予防のゲートキーパー養成研修修了者の累積人数	469人 (平成23年度)	789人 (平成27年度)
③ 気分障害・不安障害に相当する心理的苦痛を感じている人(K6における10点以上)の割合の減少	10.7% (平成24年)	9.6% (平成34年)

(2) 次世代の健康

項目	現状値	目標値
① 朝食を習慣的に欠食している子どもの割合の減少	保育園児 3.5%、幼稚園児 1%、 小学生 4.1%、中学生 10.4%、 青年期男性 25.7%、 青年期女性 12.3% (平成23年)	保育園児 1.5%、幼稚園児 0.5%、 小学生 3%、中学生 8%、 青年期男性 17%、 青年期女性 10% (平成28年)

② 適正体重の子どもの増加		
ア 全出生数中の低出生体重児の割合の減少	9.0% (平成23年度)	減少傾向へ (平成33年度)
イ 肥満傾向(肥満度20%以上)にある子どもの割合の減少	幼稚園2.3%、小学校7.2% 中学校9.4%(平成23年度)	減少傾向へ (平成33年度)

(3) 高齢者の健康

項目	現状値	目標値
① 要支援・要介護認定者数の増加の抑制	22,529人 (平成23年度)	29,000人 (平成33年度)
② 認知機能低下ハイリスク高齢者の把握率の向上	3.3% (平成23～25年度推計値)	10% (平成29～31年度)
③ ロコモティブシンドローム(運動器症候群)を認知している市民の割合の増加	13.8% (平成24年)	80% (平成34年)
④ 低栄養傾向(BMI20以下)の高齢者の割合の増加の抑制	15.8% (平成23年度)	20% (平成33年度)
⑤ 外出を控えている理由が足腰の痛みである高齢者の割合の減少	54.4% (平成23年)	45% (平成32年)
⑥ 地域の何らかの行事等に参加したことがある高齢者の割合の増加	47.1% (平成23年)	60% (平成32年)

【健康を支え、守るための社会環境の整備に関する目標】

項目	現状値	目標値
① 地域のつながりの強化(居住地域でお互いに助け合っていると思う人の割合の増加)	41.5% (平成24年)	65% (平成34年)
② 健康づくりを目的とした活動に主体的に関わっている市民の増加	健康づくりを目的とした市民グループ数 17団体、会員数1,475人 (平成23年度)	健康づくりを目的とした市民グループ数 22団体、会員数1,840人 (平成34年度)

【栄養・食生活、身体活動・運動、休養、飲酒、喫煙及び歯・口腔の健康に関する生活習慣及び社会環境の改善に関する目標】

(1) 栄養・食生活

項目	現状値	目標値
① 適正体重を維持している人割合の増加(肥満(BMI25以上)、やせ(BMI18.5未満)の減少)	68.3% (平成22年度)	増加へ (平成32年度)

②適切な量と質の食事を摂る人の増加		
ア 主食・主菜・副菜を組合わせた食事が1日2回以上の日が週に4~5日ある人の割合の増加	65.8% (平成23年)	75% (平成28年)
イ 食塩の多量摂取につながる食行動のうち、3項目以上当てはまる人の割合の減少	34.7% (平成24年)	30% (平成34年)
ウ 野菜を1日1回またはほとんど食べない人の割合の減少	小学生10.4%、中学生19.5% 青年期男性37.8% 青年期女性33.7% (平成23年)	小学生5%、中学生10% 青年期男性20%、 青年期女性20% (平成28年)
エ 果物を食べる回数が週3回以下の人の割合の減少	65.0% (平成24年)	30% (平成34年)
③食環境の整備		
ア 毎日だれかと一緒に食べる割合の増加	小学生95.1%、中学生82.5% (平成23年)	小学生100%、中学生90% (平成28年)
イ 外食をする時や食品を購入する時に栄養成分表示を参考にする人の割合の増加	53.0% (平成23年)	80% (平成33年)
ウ 利用者に応じた食事の計画、調理及び栄養の評価、改善を実施している特定給食施設（その他の給食施設含む）の割合の増加	17.3% (平成23年度)	増加へ (平成33年度)

(2) 身体活動・運動

項目	現状値	目標値
運動習慣のある人の割合の増加	18.0% (再) 60歳以上27.1% (平成23年)	28% (再) 60歳以上37% (平成33年)

(3) 休養

項目	現状値	目標値
睡眠による休養を十分とれていない人の割合の減少	24.4% (平成24年)	15% (平成34年)

(4) 飲酒

項目	現状値	目標値
① 多量飲酒する人(3合以上)の割合の減少	男性10.6%、女性2.8% (平成23年)	男性8.5%、女性2.2% (平成33年)
② 東大阪市版AUDIT累積実施数	130人(平成23年度)	3,300人(平成33年度)
③ 妊娠中の飲酒をなくす	2.3%(平成24年)	0%(平成34年)

(5) 喫煙

項目	現状値	目標値
① 成人の喫煙率の減少	22.0% (平成23年)	16% (平成33年)
② 妊婦の喫煙率の減少	5.8% (平成24年)	0% (平成34年)
③ 日常生活で受動喫煙(家庭・職場・飲食店・行政機関・医療機関)の機会を有する人の割合の減少	医療機関での敷地内禁煙及び 建物内禁煙 96.0% 職場(ほぼ毎日) 20.7% 家庭(ほぼ毎日) 24.0% 飲食店(ほぼ毎日) 57.4% (平成24年)	行政機関 0% 医療機関 0% 職場 受動喫煙のない職場の実現 家庭 9% 飲食店 21% (平成34年)

(6) 歯・口腔の健康

項目	現状値	目標値
① 口腔機能の維持・向上		
ア 60歳代における「食べ物がよく噛めない」と感じている人の割合の減少	9.6% (平成23年度)	5% (平成33年度)
イ よく噛んで味わって食べる人の割合の増加	43.0% (平成23年)	50% (平成28年)
② 歯の喪失防止		
ア 80歳で20歯以上の自分の歯を有する人の割合の増加	ア 平成24年度実績	ア 50% (平成33年度)
イ 60歳で24歯以上の自分の歯を有する人の割合の増加	イ 63.4% (平成23年度)	イ 70% (平成33年度)
ウ 40歳で喪失歯のない者の増加	ウ 75.3% (平成23年度)	ウ 80% (平成33年度)
③ 歯周病を有する者の割合の減少		
ア 40歳代における進行した歯周病を有する人の割合の減少	ア 53.0%	ア 40%
イ 60歳代における進行した歯周病を有する人の割合の減少	イ 65.2% (平成23年度)	イ 55% (平成33年度)
④ 乳幼児・学齢期のむし歯のない児の増加		
ア 3歳児でむし歯がない児の増加	ア 79.5%	ア 85%
イ 12歳(中学1年生)でむし歯のない児の割合の増加	イ 61.2% (平成23年度)	イ 70% (平成33年度)
⑤ 過去1年間に歯科健康診査や専門家による口腔ケアを受けた人の割合の増加(20歳以上)	59.9% (平成24年)	65% (平成34年)